

訃報 金指昇先生（物理・数学）

金指昇先生は 9月10日13時50分 入院加療中の板橋中央病院にて逝去されました。享年91。葬儀は12日12時より板橋区中台のご自宅で執り行われました。

ご冥福をお祈りいたします。

先生は文京に昭和25年～38年の13年間在籍され、5期（1E、2B、3B）、8期（1E、2D、3D）、10期（2D）、12期（1C、2F、3D）、14期（3A）の担任をされました。

先生からは文学・人生・登山・つり・写真・絵画・寮歌…そして物理も学びました。先生ご自身の人生・人生感については、3年前の「紫筍53号」のインタビュー記事に簡明に掲載されております。ここに再掲しますので、お読みください。（文責；杉本安弘）

「紫筍」53号（平成22年刊）4～5ページ（原文は縦書き）

あの頃の文京、あの先生に聞く①

孤高に生きる

金指 昇 先生 （12期D担任 昭和25年～38年 物理・数学 88歳）

—先生は男女共学となった昭和25年に文京に赴任されましたね。

金指 「青い山脈」が流行っていた頃で、新制中学校を卒業した生徒達が始めて入学するのと一緒に教師になったので楽しかった。いろいろなエピソードはあるが、良かったと思っているよ。

—先生は5期、8期、12期を3年ずつ担任され、また14期は3年(A組)の時に担任されたので、4つの期の生徒を卒業させたわけですね。

金指 あと10期を1年間(2年D)担任したので、文京13年間で11年間担任をしたわけだ。科目としては物理、ときには数学も教えたね。

旧制高校の寮歌も教えた

—文京の思い出は

金指 就職した時はJR水道橋駅の近くの元町小学校に間借りしており、すぐに西巢鴨にモデル校舎を建設すると言うことで、皆活気があったね。また北大予科・北大を卒業しているので、全国の旧制高校の寮歌を知っていたので、僕が教えて、昭和34年の秋の文化祭で3年生(12期生)が歌ったね。

—私も一緒に歌いました。文化祭のプログラムの第一番目で、D組の滝谷敬一郎君の檄文で、男子組のC・D組が主体の18人が舞台上上がりました。結果は満席の会場から大喝采で大成功、感極まれり、という状況でした。翌年も一浪した者達と三年生(13期生)が舞台上立つなど、その後「文化祭の寮歌」は20期迄続いたようです。仕掛け人が先生だったと伺ったのは初めてです。

国語科教師の研修旅行にも同行

金指 国語科だけが夏に教科の親睦と文学遺跡を訪ねて研修旅行をしていたが、それにも入れてもらった。初回は昭和29年で塩原への一泊旅行だったが、だんだんと遠くへ宿泊日数も増え、北は北海道(昭和36年、10泊)から南は九州(昭和37年、11泊)まで一緒に歩いた。お陰で西岡先生(旧一期C)をはじめ国語の諸先生とは兄弟のようなお付き合いをさせてもらった。文学的には、若山牧水が好きだな。心が漂流しているからかな。(牧水の話が一段落すると関連する「古今集」の歌がすらすらと口をつく)

—先生はお元気ですね

金指 僕は静岡県の伊豆で大正11年9月9日生まれなので、今年の誕生日で米寿(88歳)だよ。昔は山に登り外国に行ったが、最近は帯状疱疹になり、週一度東大病院に行っている。最近体力がガタガタ落ちてきたね。しかし脳みそははっきりしてきた。

旧制中学校で三國連太郎と同級

—そういえば先生は三國連太郎とクラスメートとの噂がありますが

金指 下田にあった豆陽(とうよう)中学校に進学した。そこで彼と同級だった。名簿で言うと金指の次が佐藤政雄(三國連太郎の本名)だった。

—豆陽中時代は神童の誉れが高かったとのことですが

金指 静岡県だから、通常は静岡高校(卒業生の代表は中曽根康弘元首相)を受験するのだが、一学年が約2百人だったが、「超」が付く一番の成績なので、「一高を受けろ」と言うので受験したよ。当時は高校に入らなければすぐに召集令状が来て軍隊に入隊しなければならなかったのが真剣だったよ。

しかし失敗し、数日後に試験のあった北大予科に合格した。もちろん北海道への憧れもあった。恩師は中谷宇吉郎先生(雪の博士)だが、茅誠司さん(後の東大総長)ともニセコにスキーに行ったね。茅さんが東大に移ったので、北大理科を卒業してから東大の文学部に学士入学した。文学への憧れもあった。また冒険心が強く南氷洋に行き、一年間缶詰になっていた。南極大陸の周辺を放浪し続けたが、その孤絶のすさまじさの中に、逆にどんなに人間的集団社会という対極点を感じたことか。美しいオーロラも孤独で眺める眼には何も感動を生じない物理現象にすぎなかったという体験は、言いようのない収穫だったね。帰国した時、奥田校長に会って「文京に来ないか」と言われ、初めての就職先が文京になった。

—昭和38年 北園高校に転勤されました。

金指 北園では外国語は英語だけでなく、フランス語・ドイツ語・ロシア語等も教えていて、とても自由な雰囲気があった。同僚に網野善彦さん(日本史)が居て楽しかった。長縄光男君(12期C、現横国大名誉教授)もロシア語を教えにきたな。

北園の立派な校舎(昭和3年建設)を壊したね。ドレスデンなどは第二次大戦末期空襲で破壊されたが、ジグソーパズルを組立てるように復興したね。なにか日本では良き伝統を破壊しているような感じがするね。

趣味は海外旅行と登山・清流釣り

—北園に20年勤務されて定年前に退職されましたね。

金指 女房が交通事故に遭い、7年間介護したよ。女房を亡くしてから海外に年に4~5回行っている。アメリカとオセアニアには行かないが、それ以外は行ったよ。クリスチャンなので、三大聖地であるエルサレム、バチカン、サンティアゴ・デ・コンポステーラにも行ったよ。イタリアのトスカーナ地方のシエナはいいね。またポルトガル・スペイン特にアンダルシア地方では癒されるね。イベリア半島の先端のジブラルタルは英国領でユーロが使えないが地政学的にも美術学的にも興味がわくね。

一方 2・3年前まで中近東がおもしろく、特にシリアのダマスカスやアレッポが好きで何回も行ったよ。イランも3回いったかな。

—なにかローマ帝国の東西両端に行っている感じですが

金指 中国の河西回廊やタクラマカン砂漠にも行ったなあ。趣味と言え基本的には山々への憧憬に20~30年がアツという間に過ぎた気もする。高校時代から山岳部員となり大学時代は本格的なプロの部員として小さい体格ながら鍛え上げられた闘魂は北海道の山々から南北アルプス、九州の山々を岩稜だけが友達のように過ごしたこともあったね。還暦を過ぎてからは異常とも言える情熱で日本の渓谷の源流に憑かれているが、最も愛する魚、イワナがその源流に住んでいるからかな。イワナも最長は57センチを釣ったことがあるよ。

—現在のご心境は

金指 「60の時になって始めてすばらしいと思える事に気がついた。70になった。70になってはじめてすばらしい事があると気付いた。」 私の敬愛する尾崎一雄さんに励まされつつ、これからの人生を静かに歩んで行こうと思っている。

(平成22年8月13日 銀座のご鬚頁の喫茶店で 杉本安弘 12期C)